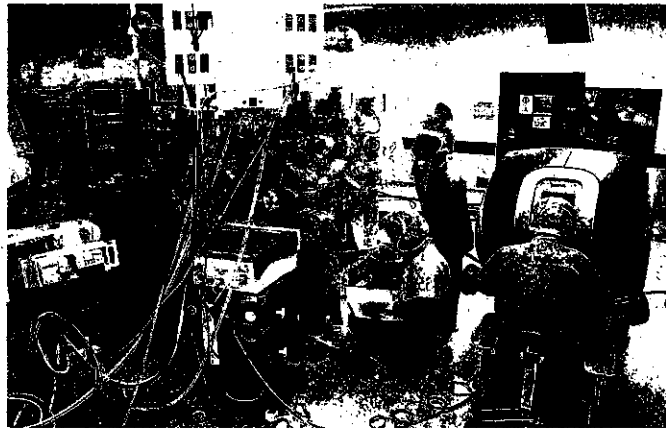


# 手術支援ロボット導入

## 徳大病院初 患者の負担軽減



手術支援ロボットを使った前立腺全摘除術—徳島大学病院 (同病院提供)

徳島大学病院は17日、内視鏡手術の際に用いる手術支援ロボット「ダウインチ」を四国で初めて導入したと発表した。メスやはさみを装着したロボットのアームを、医師が画像を見ながら遠隔操

作する仕組み。精密な手術が可能になり、同病院では医師や患者の負担軽減につながると期待している。

手術は患者の体に1、2センチの穴を開けて内視鏡と3本のアームを挿入。医師は内視鏡の画像を確認しながら、患部の切除や縫合などの手術を遠隔操作で行う。

画像は奥行きのある鮮明な高解像度3Dで、自在に拡大して手術部位を詳細に確認できる。アームは人間の手のように細やかな動きが可能で、縫合などの繊細な作業に有効。また、小さな傷口で処置ができるため、手術

時の出血も少なく、患者への負担も軽減される。

購入額は3億1500万円。これまでに男性2人に前立腺全摘除術を行い、術後の経過は順調という。

(大塚康代)